

倭楓亦楓之一種而有雌雄之別歟然則禮乃蜀土之郷名耳

〔年々隨筆〕もみぢはかへで猶みどりなるにたゞ一しほ今ぞ染つらんとおぼしくてつや／＼と匂へる二藍の色めでたくいとこくひいろに染なしたるもをかし今の世にはもみぢといふ名をおのがものにぞまたるすぐせいと尊しかし

〔年々隨筆〕もみぢはかへでといふ返すくめでたし

〔剪花翁傳前編一月開花〕嫩機樹なつかへ 數種即若芽紅葉二月中旬方日向地二分濕土回塵まひこま肥大寒中に入

べし移うつか秋彼岸後より十一月頃までよし毛氈縮緬定家山青海せいがい綠青海せせいいづれも芽出し至て赤く葉満開て後青く秋淡く照也毛氈殊にあかし青海は葉七瓣にて色亦深くして長くうするがす野村色紫にて秋も同じ色なり紙に摺寫せば紫いとうつくし一行寺芽出しの時は少し赤し開き満てば青し秋は抜群照也都て芽出しの枝は水上がたし是は枝木を水に入んとおもふ程の長を鋸目を入れて汲立の水にて逆水して水器に生置ば勢ひよく水を上る也もし日を経るものは切口をよく焼きて此切口を切捨木通の末を水に和し其中に漬置て後挿べし

〔大和名所圖會三平群郡〕龍田川 廣瀬郡より流れ勢野を経て立野の西龜瀬に至り阿州に入立野にて漕運の津とす舟は上み初瀬川を加幡村かたむらに通ひ又寺川を今里に通ふ高瀬舟といふ或書曰龍田の町を西へ出れば川あり是龍田川也此川を平群谷といふ生駒嶽の麓より出る川なり立野の西に紅葉川もみぢがわとして小溝あり是を龍田川といふはあやまり也

〔古今和歌集五秋〕題あらす

よみ人しらす

龍田川紅葉みだれてながるめりわたらば錦中やたえなん

〔今古殘葉二十六〕高雄山に紅葉を見る記

高松重季卿

享保乙卯のとし神無月はじめつかた高雄山の紅葉この比さかりときてまかりにしとし比